

# O x b r i d g e 研修を終えて

高橋 佳佑

## ●初めに

この Oxbridge 研修は私にとってとても意味の大きなものとなりました。この研修のテーマである、「生きざま研修」から離れた内容かもしれませんが、最後まで見てこの研修に興味を持ってくれたならとても嬉しいです。

## ●志望動機

私は、自分の夢を見つけるヒントが海外でいろいろな活動をする中で見つけれられるのではないかと思います、この研修に参加しました。これまで夢がないことに危機感を抱きつつも何も行動を起こさずにいる状況を変えたいと思ったのです。

## ●Oxford 生との交流

私はこの研修でいろいろな人と話をしましたが、あるアメリカ人留学生と食堂で話した時のことが特に印象に残っています。彼女とは日本の印象について、そして日本の憲法改正の動きについて話しました。自分の意見を伝えるということはなんとかできたのですが、相手の意見が全然聞き取れなくて、悔しい思いをしました。自分の実力の至らなさを痛感しました。また、変に遠慮してしまって分からないところをスルーしてしまったことも後悔しています。ただ、自分の意見を誰かに話すという機会は日本ではあまりないことだったので、すごく楽しかったです。



## ●プレゼンテーションを通して

私はグループ活動というものが苦手だったのですが、せっかくこの研修に参加したのだから今までやってこなかったことをやろうと思って、プレゼンの班の班長になりました。

私達の班は駅伝について発表したのですが、自分の見込みが甘くて発表当日にもなって、私達の班だけが事前準備をほとんどしておらず、なかなか大変でした。ただ、作業の分担をうまくやって、時間内でそこそこ良いものを作ることができ、うれしかったです。他の班員との意見の対立も起きたりしましたが、それも含めてとても良い経験ができたと思います。

## ●岡本尚也さんの話

岡本尚也さんは、慶応大学を卒業後、Cambridge 大学（物理学）、Oxford 大学（日本学）で学び、現在は、主に次世代の人材を育成するための活動を行っています。

この方からは色々刺激的な話を聞きましたが、「多角的な視点」についての話が特に印象に残りました。何かをする時、その行為には必ずメリットとデメリットが発生します。私たちの生活する社会においては特にその良い面もしくは悪い面ばかりが注目されることが往々にして起こります。「多角的な

視点」とは、物事を批判的にいろいろな角度で見てそのことが持つ別の意味を考えることだそうです。そして、別の視点からものを見るには知識が必要であるとも言っていました。この話を聞いた時、自分は「多角的な視点」とは想像力なのだと思います。そして、その想像力をもって自分の意見を持たなければいけないのだと思います。そうでなければ別の意見を受け入れられなくなるからです。

## ●加藤先生の話

加藤先生は今回の研修の引率をしてくださった先生で私の元担任です。この研修においては私たちにたくさんアドバイスをくださいましたが、日本に帰る前日に話してくださったことが特に心に残っています。

先生はお金持ちになることでも、女性にもてることでも何でもいから「欲望」を持ち、そしてそのため何をするべきか考えて行動しなければならないとおっしゃいました。自分が思うに、「欲望」とは生きる意味であり、自分はそれを見いだせていません。夢を見つけるには、どんな仕事がいいのかを考えることよりも先に、自分が生きていく原動力になっているものを自分の内部から探し出さなければいけないのだと思います。



## ●これからの目標

### ① 想像力を持つこと

まずこのためにできることは、いろいろな科目を受験に関係なくしっかりと勉強すること、そして自分が見聞きしたことについて提示された情報だけで満足せず、もっと詳しいところまで新聞や書籍などで調べることだと思います。そして、そのうえで自らの意見を形成していきたいです。

### ② 生きる意味を見つけること

これはきっと自分の行動の軸となっているものを自覚することなのだと思います。ただ、いまのところ、どうすればれが見つかるのか全く分かりません。ただ、一つ分かっていることは、これまで通りの生活を送るだけでは何も見えてこないということです。だから、今まで手を抜いてきたことにも全力を注いで目の前にある課題を乗り越えることで成長し、何か新しいものを見出せるよう頑張りたいと思います。

## ●最後に

今回の Oxbridge 研修に際しては、たくさんの先生方や ISA の方、家族のお世話になりました。本当にありがとうございました。皆さんの期待に少しでも応えられるようにこれからも日々精進していきたいと思っています。